

秋田市食品ロス実態調査報告書

令和4年11月25日版

1 実施概要

■実施日時	令和4年9月29日（木）30日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター 旧焼却棟ステージ
■作業時間	8:30～17:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ12名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> ・同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 ・調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 <ul style="list-style-type: none"> 【9月29日】 中央地区（檜山11袋）、東部地区（東通10袋）、西部地区（新屋元町又は日吉町5袋）、南部地区（御所野8袋）、北部地区（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和地区（河辺4袋） 【9月30日】 中央地区（川尻6袋、大町6袋）、東部地区（添川4袋、旭川4袋）、西部地区（新屋勝平町6袋）、南部地区（上北手8袋）、北部地区（飯島12袋）、河辺・雄和地区（雄和4袋） ・調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約128kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重さを計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手つかず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 367.3kg、1 袋あたりの平均重量は約 3.7kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 79.0kg、②東部地区は 18 袋で 53.4kg、③西部地区は 11 袋で 36.5kg、④南部地区は 16 袋で 59.4 kg、⑤北部地区は 24 袋で 101.6 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 37.4 kg であった。

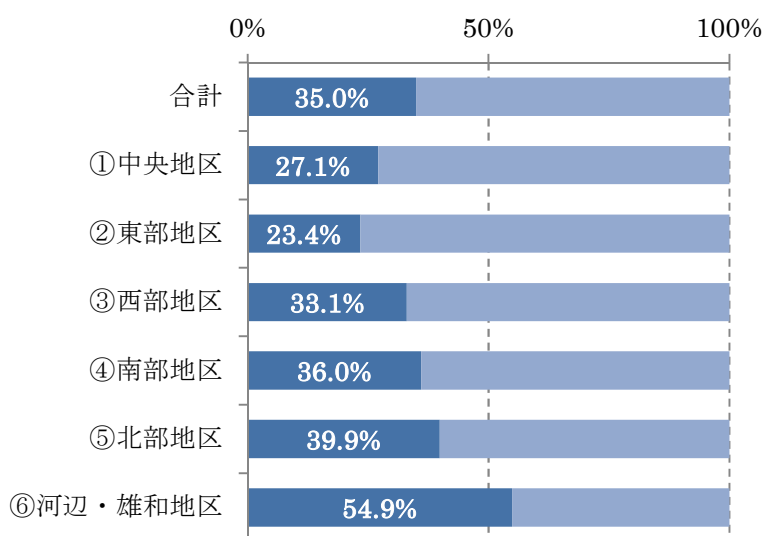
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	367.30	3545	3.67	35.5
①中央地区	23	79.03	775	3.44	33.7
②東部地区	18	53.44	605	2.97	33.6
③西部地区	11	36.49	410	3.32	37.3
④南部地区	16	59.40	570	3.71	35.6
⑤北部地区	24	101.55	910	4.23	37.9
⑥河辺・雄和地区	8	37.39	275	4.67	34.4

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 35.0%、地域別に見ると⑥河辺・雄和地区が最も高く 54.9%、次いで⑤北部地区の 39.9%、④南部地区の 36.0%、③西部地区の 33.1%、①中央地区の 27.1%、②東部地区の 23.4%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	367.30	128.50	35.0%	65.0%
①中央地区	79.03	21.45	27.1%	72.9%
②東部地区	53.44	12.53	23.4%	76.6%
③西部地区	36.49	12.07	33.1%	66.9%
④南部地区	59.40	21.40	36.0%	64.0%
⑤北部地区	101.55	40.51	39.9%	60.1%
⑥河辺・雄和地区	37.39	20.54	54.9%	45.1%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

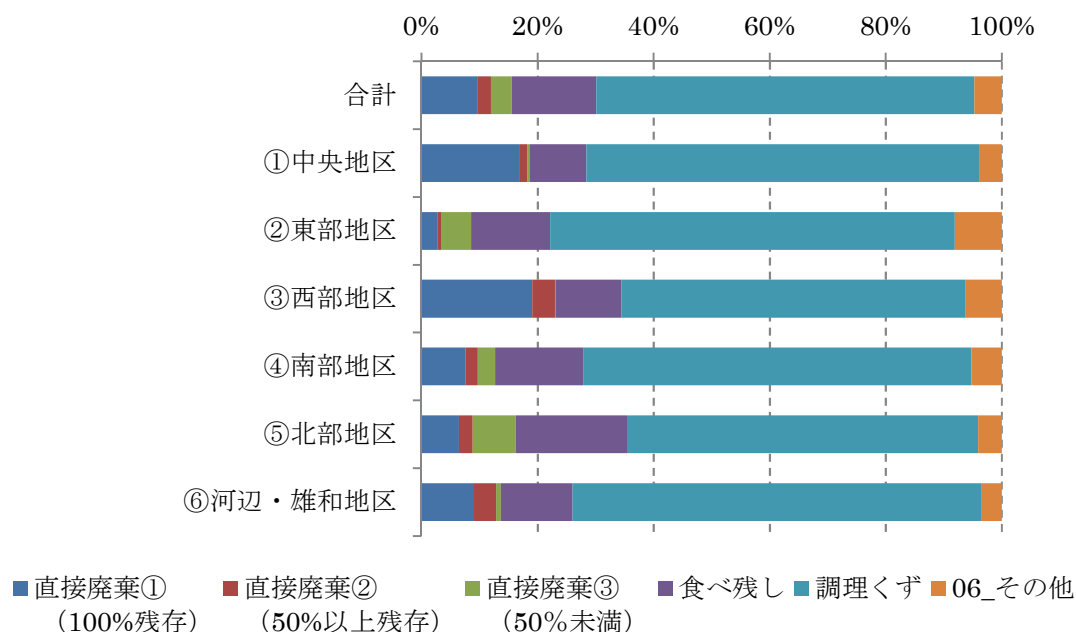
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計では30.1%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く35.4%、次いで③西部地区の34.5%、①中央地区の28.4%、④南部地区の27.8%、⑥河辺・雄和地区の26.0%、②東部地区の22.2%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、⑤北部地区の食品ロスの割合は、②東部地区よりも13.2ポイント高い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち9.6%を占めており、③西部地区とが19.1%と高く、次いで①中央地区が16.8%、⑥河辺・雄和地区が9.0%、④南部地区が7.5%、⑤北部地区が6.4%、②東部地区が2.8%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では14.6%、⑤北部地区が19.2%と高く、次いで、④南部地区の15.1%、①中央地区が最も低く9.7%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	30.1%	9.6%	2.4%	3.6%	14.6%
①中央地区	28.4%	16.8%	1.4%	0.5%	9.7%
②東部地区	22.2%	2.8%	0.6%	5.2%	13.6%
③西部地区	34.5%	19.1%	3.9%	0.2%	11.3%
④南部地区	27.8%	7.5%	2.2%	3.0%	15.1%
⑤北部地区	35.4%	6.4%	2.4%	7.4%	19.2%
⑥河辺・雄和地区	26.0%	9.0%	3.8%	0.9%	12.3%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

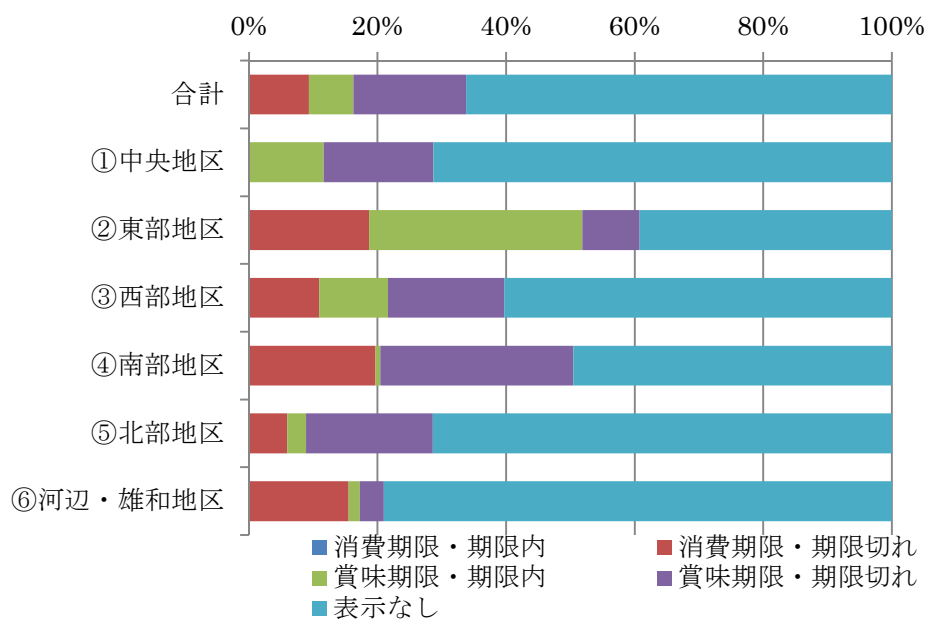
(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く66.2%であり、消費期限の表示があったものは9.6%（期限内が0.0%、期限切れが9.3%）、賞味期限の表示があったものは24.4%（期限内が6.9%、期限切れが17.5%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち、0.0%、「期限切れ」については、直接廃棄（100%手付かず）のうち、9.3%で、地区別に見ると④南部地区が最も高く19.7%であった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち6.9%、地区別に見ると②東部地区が最も高く33.2%となっている。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
	合計	0.0%	9.3%	6.9%	
①中央地区	0.0%	0.0%	11.6%	17.1%	71.3%
②東部地区	0.0%	18.7%	33.2%	8.9%	39.3%
③西部地区	0.0%	10.9%	10.7%	18.1%	60.3%
④南部地区	0.0%	19.7%	0.7%	30.0%	49.5%
⑤北部地区	0.0%	5.9%	3.0%	19.7%	71.4%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	15.5%	1.8%	3.7%	79.0%

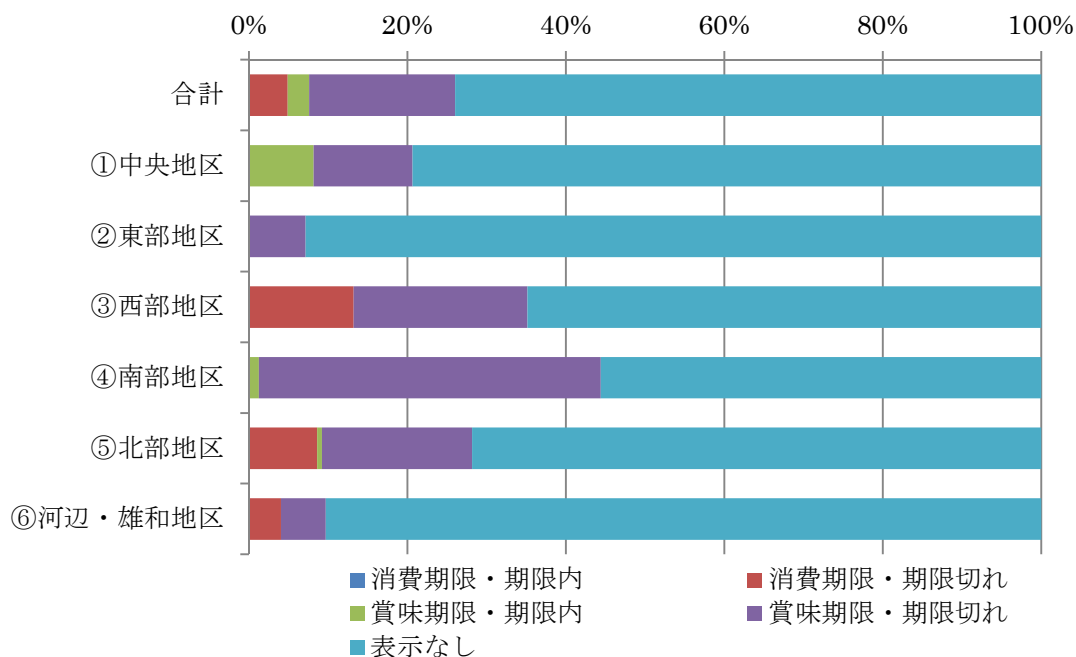
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く74.0%であり、消費期限の表示があったものは4.9%（期限内0.0%、期限切れ4.9%）、賞味期限の表示があったものは21.1%（期限内2.7%、期限切れ18.4%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限切れ」のものが直接廃棄のうち4.9%であり、地区別では、③西部地区で最も高く、13.2%であった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち2.7%、地区別に見ると①中央地区が最も高く8.2%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	4.9%	2.7%	18.49%	74.0%
①中央地区	0.0%	0.0%	8.2%	12.5%	79.3%
②東部地区	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	92.9%
③西部地区	0.0%	13.2%	0.0%	21.9%	64.9%
④南部地区	0.0%	0.0%	1.2%	43.2%	55.6%
⑤北部地区	0.0%	8.6%	0.6%	19.0%	71.8%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	4.0%	0.0%	5.7%	90.3%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和3年度の実績を参考に一人1日あたりの食品ロス発生量を推計すると53.6g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が27.7g/人・日、食べ残しが25.9g/人・日と推計された。

図表 6 一人1日あたりの食品ロス発生量（秋田市）

